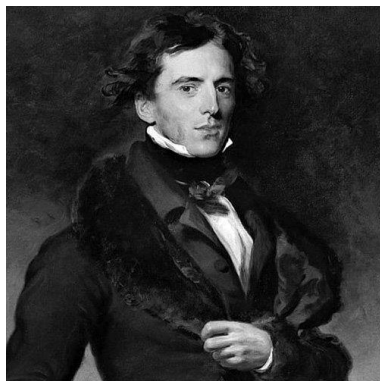


『Mind Charging』

第 243 回 発行：入試広報室 発行日：令和 3 年 3 月 24 日

キルケゴールの名言



During the first period of a man's life the greatest danger is not to take the risk.

人生の初期において最大の危険は、リスクを犯さないことにある。

人生の初期とはどのくらいの年齢までを指すのでしょうか。キルケゴール氏が生きていた 200 年ほど前の 1800 年代の世界の平均寿命は 26 歳くらいだそうです。当時の日本でも 34~37 歳ということで、現代の“100 年時代”など、当時を生きた人々には信じられない話だと思います。『初期・中期・終期』に分けたとして、当時なら 11~12 歳頃と考えると、小学生までということでしょうか。そうであれば、まだリスクマネジメントという概念そのものが備わっていない部分もあると思いますので『そんなに大袈裟に言わなくても・・・』と感じますが、当時の平均寿命を考えると、12 歳まで様々な挑戦することで得た貴重なデータを活かす時間が“たったの” 25 年しかないのです。当時の様々な発見が基となったものが、現代では一切通用しないということではないという意味でも、当時の人々の人生はかなり“必死”だったことが想像できます。

当時の人々が現代人の寿命の長さだったら、現代は今よりもっと進化していたのかもしれませんが、現代人が怠けているとは思えないことから、当時より人生を楽しむ“余裕”が持っていると考えた方がポジティブでしょう。現代人の初期は単純計算すると 30 年余りになります。高校生であるみなさんは、まだまだ挑戦することが可能ということです。挑戦してみたいくなるような材料は至る所にあります。リスクを恐れず、ひとつでも多く探し当てて様々な挑戦と経験を重ね、自分の人生を充実させていきたいものですね。チャンスはいくらでもあると信じています！（編集委員：入試広報室 鈴木）

セーレン・オービエ・キルケゴール(デンマーク語: Søren Aabye Kierkegaard デンマーク語発音:, 1813 年 5 月 5 日 - 1855 年 11 月 11 日)は、デンマークの哲学者、思想家。今日では一般に実存主義の創始者、またはその先駆けと評価されている。キルケゴールは当時とても影響力が強かったゲオルク・ヴィルヘルム・フリードリヒ・ヘーゲル及びヘーゲル学派の哲学あるいは青年ヘーゲル派、また(彼から見て)内容を伴わず形式ばかりにこだわる当時のデンマーク教会に対する痛烈な批判者であった。(Wikipedia 参照)